

tam tam

2020.03

VOL.

03

P1 [特集]
TAMBA 地域づくり大学 2019

P2 [特集]
TAMBA 地域づくり大学 2019

P3 隣の自治協さん「ふるさと和田自治振興会」
丹波市民、学びの窓「元旦マラソンと登山」

P4 繋ぐ！市民活動「氷上西高『放課後カフェ』」
活動事業者紹介「コープ柏原」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

閉校式、開催
これからの行動宣言！



閉校式参加の修了生集合写真・閉校式の様子

昨年 10 月に開講した「TAMBA 地域づくり大学 2019」。今回の地域づくり大学は地域づくり活動を「これから始める」には？日々の活動の中で「参加」を広げるには？を主なテーマとし、「活動づくりコース」、「情報発信・共有コース」、「会議運営コース」の3つのコースそれぞれに5講座（計 15 講座）を開講し、43 人の受講生（コース重複含む）が半年間市民プラザを拠点に学びました。

学んだことは行動に移し、形にすることが重要。3月7日に

行われた「閉校式」では受講前後の私の学びと変化を受講生同士で振り返り、これからの「私の行動宣言」を1人ひとりが発表し、修了証の授与がありました。日々の暮らしや活動の中でできることから、チャレンジしていくとそれぞれに発表する姿は輝いていました！

センターでは受講生の皆さんの新たな一歩を今後も応援していきます。そして、足りなかったこと、今後さらに学びたいことはセンター主催講座などでお応えしていく予定です。



Topics 01 3つのコース(各5講座)での学びとは

活動づくりコース 私から始める・やりたいことを形にする(プロジェクトマネジメント)をテーマに、1人ではなく地域の中で、または組織の中で新たに取り組んでいく、地域課題を捉え、わくわく・楽しく取り組んでいくために必要なことを学ぶ場として開催しました。

私から始める地域への参加方法・活動事例を知ることと、私と私の周りにいる人たちの思いを整理することから始め、「できること・やりたいこと・すべきこと」を整理し、活動アイデアを考えました。そして、1人で始めるのではなく仲間と一緒にうまく取り組んでいくための工夫、活動計画を考える時に重要な視点を学び、最終講では受講生それぞれが考えた活動計画をお互いに紹介し、高め合いました。



情報発信・共有コース 参加を広げる情報発信・共有(PR)をテーマに、伝わる情報発信、伝わるだけでなく、それが行動や参加につながる情報発信や団体内での情報共有のために必要なことを学ぶ場として開催しました。

最初に、地域づくりに必要なビジョンを持つこと、そのための誰にどうなってほしいかを考えることが情報発信で最も重要であることを共有しました。また、地域メディアが「伝わる」情報を発信するために大切にしていることをお聞きし、受講生が実際に作成している媒体を使った事例検討で改善点を考えました。その後、対象者や関心に合わせた発信方法やツール、テクニックを学び、最終講では、団体内での情報共有の対象と内容を整理し、情報共有媒体の特徴について学びました。



会議運営コース 対話と合意形成のための会議運営(ミーティングファシリテーション)をテーマに、日々行われている会議を、自分ごとになる会議、楽しく・わくわくする会議、みんなの知恵や意見が集まり、創造できる会議に変えていくために必要なことを学ぶ場として開催しました。

最初に、受講生の経験している会議はどのような場か、良い会議とは何か、について共有し、良い会議の障壁、会議の準備や運営手法について学びました。その後、実際に話しやすい会議とそうではない会議両方を体感し、ワークショップの手法や会議の運営計画づくりを行いました。最終講では、受講生のうち4人が会議運営役となり、学んだことを生かした会議運営のロールプレイ(模擬的に役割を決めて、疑似体験)を実施、良い点や改善が必要な点についてお互いに評価し合い、学びを深めました。

Topics 02 学びを活用してNPO法人を立ち上げ!

地域猫活動に関わる中で、新たにやりたいことが見え、どうすればいいのかわかっていた岩間さん。「活動づくりコース」を受講し、多頭崩壊の現場に出会った経験などから見てきた高齢者の孤立や住民の関係性の希薄化などの地域猫活動が必要となっている社会的背景と自分自身がやりたいことを整理する中で、法人を設立し活動する必要があると考え、2月末に「NPO法人たんばコミュニティハブ」の設立申請をされました。



活動を紹介する岩間さん

設立に向けた準備ではセンターも書類作成等の助言を行い、3月5日に開催したセンター主催の「地域づくり活動にとっての法人格」講座では、ゲストとして法人化した理由や思いを形にするための苦労など事例発表していただきました。

地域づくり大学閉校式の「私の行動宣言」では、殺処分0、命を大切にできるまち・日本一猫と人が幸せに暮らせるまち=『にゃごころの里丹波』の実現を目指し、人にうまく伝える力を高め、まずは様々なメディアを使って情報発信をしていくこと、5年後の目標として、丹波市で地域猫活動を広げる TNR(不妊・去勢手術などを行う)活動を知ってもらい、『ねこまつり』を開催することを発表。今後、本格的に組織として活動をスタートされます。

隣りの
自治協の
さん

TONARI no
JICHIKYO san,

ふるさと和田振興会

360度パノラマ絶景「石金山」

ふるさと和田振興会は山南地域の西部、人口約4,500人、約1,740世帯、17自治会の和田小学校区にあり、さんなん和田漢方の里まつり、ふれあいサロン、各種講演会、小学校との連携事業、防災・防犯事業、そして岩尾城址や石金山の歴史・観光資源整備などの幅広い事業に取り組んでいます。

昨年11月22日開催の「石金山登山」では、約50人が参加し、山頂では振興会が制作した直径1mの展望案内板が披露されました。この案内板は頂上から見える360度の眺望と照らし合わせて見ることができ、参加者は山々や遠くの明石海峡大橋を指さしながら案内図と見比べたり、記念写真を撮ったりとさわやかな秋晴れの一日を過ごしました。

自治振興会と自治会の助け合い

この登山や案内板設置は、ふもとのこにや小新屋自治会と協力して実施されています。地元の新米を使ったおにぎり弁当やお菓子が用意されるなど、参加者への振る舞いもありました。振興会の主催イベントではありませんが、地元自治会がその役割の一部を引き受け、それぞれの立場で、それぞれが協力できることを持ち寄って作り上げた取り組みとなりました。

小学校区で活動する振興会と集落単位の自治会との関係では、活動内容が重なることによって住民の負担感が増えることもあります。和田地区では、それぞれが自主的に、責任を分担し合い、連携・協力して取り組んでいこうという意識が育まれています。



石金山の山頂にて

丹波市民、学びの窓

元旦マラソンで健康づくりと住民交流

元旦マラソンに参加されたことはありますか。市内の小学校区や自治会などでは、「元旦マラソン」「新春マラソン」などの名前で開催されています。ご近所の参加者同士で新年のあいさつをして、1～3km程度のいつも見慣れた道を一緒に走りますが、お正月となると周りの景色もなぜか新鮮に映る気がします。

さて、この元旦マラソンはどのように始まったのでしょうか。昭和40～60年代、社会教育や公民館活動として体育振興会や体育協会という団体を中心になったマラソン大会や駅伝大会が各地で開催されました。丹波市合併前から続く、「兵庫・丹波もみじの里ハーフマラソン大会」や「丹波市三ツ塚マラソン大会」は、市内外から多くの選手が参加する大会となっています。また中学校や高校の部活で元旦マラソンをすることもあ

ります。

地域によっては、マラソンがジョギングやウォーキングであったり、中には「元旦登山」というケースもあります。また工夫を凝らして、体力に応じたいくつかのコースを設定したり、走り終わったら火を囲んで振る舞いのうどんを食べる地域もあ

ります。住民の交流を通して健康づくりを目指す、地域の取り組みと言えます。

元旦マラソンについて、丹波市陸上競技協会会長の大西伸弘さんは「新年の最初に体を動かして心や体を豊かにすることで、1年の良いスタートになります。」と話します。住民が顔を合わせ、地域の道を一緒に走る元旦マラソンは同じ地域の住民スタッフに支えられながら、地域づくり事業としてこれからも続いていくことでしょう。



久下地区元旦マラソン大会



第42回「ふなきの里」元旦マラソン

〔写真提供〕久下自治振興会、船城地区自治協議会



繋ぐ!市民活動

兵庫県立氷上西高等学校 まちづくり部 『放課後カフェ』

まちづくり部では、イベントでのお手伝いや出店に加え、地域の中で自分たちができることを考えて行動しようと活動しています。自由に考えを出し合う中で、西高生が放課後に遊べる場所は住民センターが

河原しかないとの意見から『放課後カフェ』を始めました。

2019年7月から毎月1回、関西大学佐治スタジオを借りて開催しています。豆からひくこだわりのコーヒーや手作りのお菓子、



店内風景



運営メンバーの集合写真

サンドイッチなどの飲食物、テーブルではボードゲームが楽しめます。

今年2月には地域で活動する子ども食堂と共同で開催しました。高校生活最後の活動となった3年生は「自分たちの居場所が欲しくてつくったカフェに他の学年も集まるようになり、今回はさらにいろいろな人が来てくれて楽しかった。」「まちづくり部での様々な人とのコミュニケーションで得た体験を将来に活かしていきたい。」「後輩たちには自分たちのまちづくり部の活動をつかって行ってほしい。」と話しました。対して2年生は「子ども食堂との連携でこれまでと違うお客さんにも来てもらえた。小学校など校外へも広報していきたい。」と答えました。

自分たちにできることを考え、つくっていく楽しさを知った卒業生たちと、それを引き継ぎ、進化させていく西高まちづくり部のこれからの注目です!



活動事業者紹介

生活協同組合コープこうべ コープ柏原

来年100周年を迎える生活協同組合コープこうべは、安全なものを安心して食べられるようにという思いから生まれました。その時代にあった社会課題に対して、事業や活動を展開し、特にコープ柏原では、地域のお困りごとを解決すべく活動しています。

近年は地域住民の高齢化、核家族化に加え、商業施設の集約化などにより、日常の買い物が難しい方も多くなりました。そこで商品をトラックに詰めて地域に向く移動店舗が始まり、利用者には大変好評です。しかし、持ち運ぶ商品は限られ自由に購入できないこと、またコープは地域の方の居場所でありたいという考えのもと、利用者に店舗まで来てもらえる

よう無料で送迎する車「買い物ん行こカー」も2019年4月から始めました。

困っている方の情報は表に出にくいこと

から、丹波市社会福祉協議会と連携し、利用者の掘り起こしや課題発見・解決を進めています。利用者同士では、連絡先を交換し合ったり、「今日はあの人おらんかったけど大丈夫やるか?」などの会話がなされ、買い物を通して新たなつながりが生まれています。



買い物ん行こカー



利用者を見送る中西店長

地域交流を増やすための地場野菜販売



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。